



故正三位徳川秀康外六名位階

追陞ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治四十二年九月十日

内閣總理大臣侯爵桂太郎

内

閣

内閣書内第一六〇号

明治四十三年九月九日

内閣書記官



内閣總理大臣

木

内閣書記官長

故正三位德川秀康

故從三位前田綱紀

故從四位下戸田氏鑑

故從四位下戸田氏正

故從四位下前田正甫

故從四位下前田利保

内閣

故從五位下土井利忠

特旨ヲ以テ位階追陞セラル

故正三位德川秀康

贈正二位

故從三位前田綱紀

贈從二位

故從四位下戸田氏鑑

故從四位下戸田氏正

故從四位下前田正甫

故從四位下前田利保

故從五位下土井利忠
贈從三位

右七名特々生前ノ功勞ヲ追褒セラル
位階進陞セラルヘキ旨上奏相成然ルニ

内閣

正三位德川秀康

右鳳ニ皇道ヲ崇ヒ心ヲ白王室ニ存ス慶
長年間大將軍德川秀忠力禁廟修理
ノ大工事ヲ起スヤ秀康之ヲ都督シ竭心
盡力速ニ其功ヲ竣フ越前國越前封以來
綱紀ヲ正シ士民ヲ撫シ農桑ヲ勸メ賦歛
ヲ薄シ恩威並ニ行テ封内ノ士民皆悦服
ス羽治維新ノ際松平慶永及茂昭力
翼賛ノ功ヲ奏セシハ秀康カ皇道ヲ崇メ
ノ遺志ヲ紹述スルモノナリ

内閣

參議左近衛權中將從三位前田綱紀

右金澤藩五世、主ニシテ蚤ク父母ヲ喪ヒ長シテ學ヲ好ミ國政ヲ視ルニ及ンテ治蹟大ニ舉ル居常勤王ノ志厚ク南朝忠臣ノ事蹟ヲ世ニ顯彰セント欲シ南朝實記ヲ編集ス又画師狩野探幽ニ命シ楠氏父子櫻井驛訣別圖ヲ作ラシメ明ノ遺臣朱之瑜ヲシテ之ヲ贊セシム後ニ至リ德川光國カ楠氏ノ碑ヲ淺川ニ建ツルニ及ンテ其碑陰ニ勒スル所ノ文即チ是ナリ綱紀ノ此舉ハ實ニ勤王

内閣

ノ士ヲ後世ニ振起セシカルノ道ニ於テ關係大ナリトス又内外古今ノ圖書ヲ蒐集シ八棟ノ書庫ヲ造リテ之ヲ収藏ス新井白石ハ之ヲ見テ加州ハ天下ノ書府ナリト稱賛ス而テ綱紀播紳家及諸寺院ノ古記録ノ散逸又ハ蠹損センコトヲ憂ヒ或ハ資ヲ出シテ文庫ヲ作り或ハ書櫃ヲ贈與シテ之ヲ収貯セシメ其保存ヲ圖リテ後世ノ學者ニ便益ヲ與フルノ切亦小ナラス加之學者ヲ保護シ其業ヲ成サシメタルモノ其數亦多シ文學上ニ於ケル功績頗ル顯著ナリトス

從四位下戶田氏鐵

右大垣藩祖戶田一西ノ子ニシテ初メ江州膳所ニ
居リ食祿三萬石ヲ領シ後ニ濃州大垣ニ轉封シ
食祿増シテ十萬石ヲ領ス氏鐵入城以來専ラ
勤儉ヲ以テ士民ヲ訓導シ親ラ領内ヲ巡視シテ
殖産ノ計ヲ畫シ命シテ不毛ノ地ヲ開墾シ沃
饒ノ由ト為サシメ數年ナラスシテ新收入八千石ヲ
獲尋テ又五千石ヲ增收ス而シテ木曾揖斐長
良ハ所謂美濃ノ三大川ニシテ常ニ洪水ノ患

内閣

アリ慶安三年ノ水害ノ如キハ大垣領内ノ慘狀
實ニ言フ可カラス氏鐵大ニ之ヲ憂ヒ遂ニ城南
今福村ノ閘門ヲ改築シ城北根尾谷ノ山林
濫伐ヲ禁シ且各地ノ隄防ヲ修理シ大ニ治水ノ
計ヲ立ツ又勸農ノ吏員ヲ派シテ耕耘ノ法ヲ
改善シ且良種ヲ授ケテ之ヲ獎勵ス遂ニ毎年
收穫ノ額ヲ増スコト二十五萬俵餘ニ上ルト云フ之カ
為藩庫充實シ領民亦殷富ニ至ルモ多シ明治
維新ノ際大垣藩ノ軍功ヲ立テ其軍資ニ缺乏ヲ
告ケサリシハ氏鐵苦心ヲ經濟ニ用井シ遺澤ニ出ツ

ルモノト謂ノ可シ

内閣

従四位下戸田氏正

右大垣藩主第十代ニシテ夙ニ尊王ノ志ヲ抱キ
 常ニカラ藩政ノ革新ニ用ウ天保ヨリ安政ニ至ルノ
 間藩人ヲシテ西洋砲術ヲ研究セシメ銃砲鑄造ノ
 職工及模型大砲ヲ大垣ニ召致シ其鑄造後事セシメ
 大ニ兵制ヲ改革ス氏正曾テ徳川齊昭ノ知ヲ
 受クルヲ以テ屢藩治ノ機務ヲ質シ大ニ為ス所ア
 ラントシ又徳川慶勝ト交誼アリ與ニ國事ヲ談シ
 奉公ノ誠ヲ致シコトヲ誓フ遂ニ幕府ノ嫌忌
 内閣
 スル所ト為ル氏正之ヲ聞キ遽ニ致仕ヲ請フ幕府
 之ヲ聽ス氏彬封ヲ襲ク尋テ卒ス氏共之ニ代ル
 年尚サシ氏正陰ニ藩政ヲ統轄ス明治維新ノ
 際藩論沸騰シ勤王佐幕ノ二派ニ分ル氏正大義
 名分ヲ以テ士民ニ訓諭シ遂ニ藩論ヲ一定シテ軍
 功ヲ立テ賞秩三萬石ヲ受クルニ至ル

從四位下前田正甫

右富山藩主第二世、シテ前田利次ノ子
ナリ專ラ心ヲ藩政ニ用テ治績ヲ舉ケル小
ナラス毎ニ意ヲ衛生醫藥ニ注キ漢蘭二醫
ニ就キ之ヲ研究ス及魂丹ノ奇方ヲ護ルニ
及シテ屢之ヲ病入ニ試ミ效驗アルヲ見テ遂
ニ行高賣藥ノ制ヲ違テ藩民ニ命シ之
ヲ諸國ニ弘布セシム遐陬僻地ノ住民之ヲ
購賣收貯シテ救急ノ用ニ供シ皆以テ之ヲ

内閣

便トス迄テ今日ニ至リ賣藥ノ價額一
年凡ツ參百八萬餘圓ニシテ其納稅ノ條
貼用印紙ノ價額亦參拾餘萬圓ニ上ル
帝ニ衛生事業ニ功績アルヲミナラス富山
縣下ノ一大生産物ト爲リ利益ヲ人民ニ與
フルコト尤大ナリトス

従四位下前田利保

右富山藩主八代ニシテ前田利謙ノ子ナリ
 襲封、初ニ於テ藩治上ノ諮詢ヲ發シ藩人
 ノ文武ノ學ニ通スル者ヲシテ意見ヲ録上
 セシメ且士風振作、訓諭ヲ著シ履校約
 言ト名ツケ之ヲ一藩ニ頒示ス終始心ヲ
 經國利民ニ用弁草學ヲ俟メラ植
 物ヲ研究シ藩民ノ責業事業改良發
 展ヲ奨導シ又陶器漆器及織物類ノ
 製造事業ヲ勸誘シ藩民ニ殖産ヲカメ
 シム其功績ヲ後ニ遺スコト小ナラス

内閣

從五位下 土井 利忠

右幼ニシテ大野藩ノ封ヲ襲ク長スルニ及シテ
藩債累積シ藩勢ノ委靡スルヲ見テ大ニ之
ヲ憂ヒ銳意其釐革刷新ヲ圖リ自ラ
率先シテ節儉ヲ行ヒテ模範ヲ衆ニ示シ而
テ藩民ニ殖産ヲ勸奨シ且文武ノ學ヲ興
シテ士氣ヲ振作ス安政二年幕府令シテ蝦
夷地ノ開拓ヲ勸誘スルヤ利忠直ニ内山隆
佐ニ命シ開拓事業ヲ督シテ之ニ從事セシム

内閣

實ニ諸藩ニ於テ蝦夷地開拓ノ先鞭タリ幕
府之ヲ嘉加將ス又開拓事業ノ必要ニ由リ西洋
形ノ船ヲ製作シ大野丸ト名ツケ常ニ蝦夷地
ニ往復セシメ米國船難破ノ時ニ於テ其救助
任ニ當レリ小藩ニ於テ西洋形ノ船ヲ製作
セシハ之カ嚆矢タリ利忠ハ時勢ノ進趨ヲ見
テ大ニ治績ヲ舉手ケ克ク藩屏ノ任ヲ竭シ丸
モノト謂フ可キナリ